別　紙

公開概要書

<table>
<tr><td>受付日</td><td>令和 3 年 11 月 24 日</td><td>回答日</td><td>令和 3 年 12 月 23 日</td><td>担当課</td><td>観光交流課ほか</td></tr>
<tr><td>意見等の内容</td><td colspan="5">自分も含め、都会から益田市への移住を考えている者がいる中で、コロナ禍の今は市の活性化、人口流出抑制のチャンスである。
首都圏へのアクセス、住みやすさ、観光資源などの強みを生かし、持続可能なまちづくりの計画を策定、教育、コミュニティ、拠点づくりなどを官・民・学の協働で戦略的に進め、また歴史や文化資源を売りに、益田市をアピールすべきである。</td></tr>
<tr><td>回答の内容</td><td colspan="5">益田市では令和３年３月に「第６次益田市総合振興計画」を策定し、まちの将来像を「ひとが育ち 輝くまち 益田」と定め、様々な施策に取り組んでいるところです。
お手紙の中にもありました、「地域に親しみを持ち、地域を愛し、持続可能な益田市の担い手の育成」や、「地域の企業や行政機関と連携した教育活動」、「大学と産・民の連携」などについては、そのお考えに近いものとして、令和元年度に学校・地域・行政・NPO・企業等の共同事業体とした「未来の担い手育成コンソーシアム」を立ち上げました。その中で「幼児期から高校生までを対象に、ライフキャリア教育によるふるさとを学ぶ場や地域活動に参画する機会の創出を推進し、未来の担い手を育成」することや、「育った人材が大人となり、産業振興をはじめとした地域の課題を解決していく地域の担い手、あるいは地域資源を活用し地元の産業を支える担い手となって、地域の活力を維持していくこと」などを課題とした協議を行っております。この「未来の担い手育成コンソーシアム」は、今年度より島根大学や松江工業高等専門学校もメンバーに加え、これまで以上に産官学民が一丸となって将来の益田の担い手を育成しているところです。
また、萩・石見空港や、益田の新鮮な農作物や海の幸などの、今ある資源の更なる活用は、引き続き官民の連携により取り組んでまいります。
今まさに必要とし、取り組んでいることについて、遠くから想っていただいていること、大変ありがたく思います。市の将来像に近づいていけるよう今後も取り組んでいく所存です。</td></tr>
</table>